

**第50回 川崎市幼児教育研修大会**

**第6分科会 中堅教諭研修会**

月 日 平成22年1月20日(水)

場 所 国際交流センター レセプションルーム

講 師 藤本 ともひこ先生(絵本作家)

テーマ:「保育遊びのポイント・絵本の読み聞かせのポイント」

俯瞰図番号 E5-II E6-II

**【手遊び】**

①「くらげがふわふわ」

手でクラゲを作り、隣の人の頭やほっぺ、鼻、肩、おへそや膝、耳にくっつけて遊ぶふれあいあそび。

応用として

頭にかぶるもの→帽子、口→マスク、耳→ピアス、首→マフラーなどのものに見立てていくこともできる。

②「まる、さんかく、しかく」

しかくいもの、さんかくのもの、まるのものを考えて歌に当てはめていく。

まる→りんご しかく→カメラ

さんかく→おにぎり

だんだん大きなものに変えていき、全身で楽しむ遊び。形の認識にもつながる。

**【絵本】**

「ばけばけはっぱ」もこちゃんチャイルド

葉っぱや木の実で作られた動物写真。最初は隠れているものをみんなでふーっと息を吹きかけるといろいろな動物が隠れているものを見つけることができる絵本。葉っぱや木の実で動物が作れる発見やかくれんぼを見つける楽しさを味わう絵本

「いただきバス」

「いもほりバス」

シリーズの本。どちらも本を動かしたり、本を通して子どもも参加できる話を楽しみながら読めるもの。

**\*読み方について\***

「いただきバス」「いもほりバス」はユニークに本をゆらしたり、本をくすぐる真似をしたりする。それは、本を読むなかで子どもが参加したり、本を揺らしたり、楽しんで読んでいくお話。本の世界に入ると、自然と楽しむことができる。

ただ、本の内容によっては静かに読むものもある。1冊、1冊の本を読み手がこれは遊んで読もう、これは静かにじっくり聞いてほしいなど読み手側の気持ちもあるが、絵本1冊1冊に読み方の答えがきちんとある。

**【カード遊び】**

①1人5枚ずつカードを持ち、2、3人組を作る。

カードを隠す人とカードはどっちの手にあるか当てる人に別れる。

歌を歌いながらカードを右手。左手に異動させながら、歌が終わるときにどっちの手にあるか当てる。当たればカードをもらえる。カードをどんどん増やしたほうが勝ち。

**\*カードについて\***

ぬり絵として、子どもはほしい絵柄がある。遊びをすることで、仲が深まる。鬼ごっこにもカードを持って、まくことで、子どもは鬼よりもカードを拾う姿があるくらい、子どもは好きなもの。

②カードじゃんけん

カードをじゃんけんで勝ったらあげる、負けたら相手に渡す。カードをみんながきちんと持っているか確認して行う。

↓

困ったことがあると子どもはすぐ泣く。その解決を考えていくことは大人社会にもつながりがあり、保育や職員間の話し合いのなかでも、後ろ向きな発言ばかりでなく、前を向いた話し合いをしていくことが大切。子どもの幸せや楽しめることを考えていくことが大切である。

【スライド】

「しーらんぺったんごりら」

「すっぽんぽん」

【ハンカチあそび】

1月、4月、8月生まれの人が出る。

ハンカチを使いしっぽとりを行う。

しっぽを取られたら、カードでしっぽを買い、ゲームを続ける。しっぽもカードにかえて売ることができる。やりたくない子はしっぽ屋さんになったり、お手伝いしてもらい、みんなが参加できる形。

【歌】

「おさんぽ」

「じゃんけんうた」

【卒園絵本】

「みんな大きくなった」